

〈支援企業を訪問しました〉

柴田紙器工業株式会社

「品質と短納期で、お客様のハートをキャッチ！！」

柴田紙器工業(株)(柴田和見社長、伊奈町)は、和菓子箱の製造工場として、さいたま市北浦和で創業し昭和60年に現在の地に移転し今日に至って居ります。創業以来お客様の身になって、品質と短納期を企業方針として掲げ、お客様の要求に応え業容を拡大して来ました。

和菓子箱は約800種類と大変多く、それらを短納期での受注が多く在庫を持って対応している状態でした。顧客各社の受注形態が様々で営業情報だけでは、在庫が増加し対応が難しくなり、増大する在庫と今後の受注から納入までの生産システムの改善を図るため、広報誌等を見て知った、アブセックに支援を要請しました。

相談を受けたアブセックは、現役時代に物流の現場改善業務に精通した泉口 碩氏を紹介し、支援が開始されました。



柴田社長(右)と泉口氏

和菓子の業界は、年末商戦が大変で、11月にはいると、通常月の1.5倍位の受注で大忙しです。過去には年間を通して生産の平準化を図る為、倉庫を借りて対応したりしましたが、原価高で巧くいきませんでした。そこで泉口さんは倉庫内を整理し「種類別・顧客別」の在庫が見えるように改善し、在庫削減の糸口を探し、曖昧な状態だった材料手配から社内の生産進捗管理をシステム化し、作業状況が見えるように改善しました。次に営業担当の情報だけに頼らず、顧客在庫状況を確認する事とし、顧客を訪問する全員(配達要員他)にお客様を訪問したら、倉庫内の状況を確認する事としました。



作業現場の風景

その結果お客様の状況が良くわかり、短納期に対応する生産が出来るようになりました。

中々、お客様の実態が掴めなかったところが見え、社内の問題点がクリアーになって、改善が進みだしました。

「まだまだ改善も道半ばですが、泉口さんの助言で明らかになった問題点を、一步一步着実に改善する計画です。支援の成果は、短納期対応に留まらず品質、生産性の向上等を一貫した姿勢で支援して頂いたお陰で、従業員の問題意識が高まり、改善スピードが上がってきました。これからも品質と短納期でお客様の満足度を高めようと考えています。今後も、アブセックにお願いするところは大きいと思います。」と柴田社長は喜んで居られました。

(中川記)



上尾商工会議所・アブセックは「平成21年度 新現役
チャレンジ支援事業(モデル事業)」に取り組んでいます



ご意見・お問い合わせはこちらまで

上尾商工会議所 桶川市商工会 伊奈町商工会 北本市商工会 鴻巣市商工会

アブセック事務局 TEL048-773-2391 E-mail abcec@ageocci.or.jp